

大学をハブ拠点とした地域連携特化型のデザイン実践力向上プラットフォーム開発

代表者	蘆澤 雄亮【教授】（デザイン工学部デザイン工学科）
構成員	益子 宗（デザイン工学部デザイン工学科）／繁里 光宏（デザイン工学部デザイン工学科）／中島 瑞季（デザイン工学部デザイン工学科）

■プロジェクトの概要

デザイン工学部では、各教員それぞれが地域企業等と連携した協働型授業ないし研究を行っており、学生にとっては具体的な地域課題に取り組むことを通じたデザインの実践力向上につながっている。また、企業側にとってもデザインならではの考え方に触れることでデザインへの理解が深まり、実践的な成果が得られている。これらは、終了後にプロジェクトとして継続・研究化される例も多いが、各教員の個別の取り組みにとどまり、十分なシナジーが発揮される状況には至っていない。課題には共通性も多く、大学をハブとした情報共有・交流の場を設けることで、取り組み全体の相乗効果を狙い、最終的には本学が地域課題に取り組むハブ拠点として機能することを目指す。

■地域志向(COC)活動助成プロジェクトの成果

【教育】

本プロジェクトでは、全国9箇所においてプロジェクトが進行しており、そのうち連携協定準備中の1プロジェクトを除く8プロジェクトすべてにおいて、具体的なプロジェクトアクションを実施した。各プロジェクトには複数の学生が参画し、それぞれの地域課題に対応した取組を展開することができた。特に「地域の魅力を紹介するプロジェクト（@三重県紀北町）」においては都内での展示イベントを開催し、「地域のハブ拠点構築をめざすプロジェクト（@山口県岩国市）」においては、地域と連携した読書イベントを実施するなど、学生主体による具体的な成果が複数のプロジェクトで得られた。

【研究】

「木工作品をとおした知的障がいのある作り手と地域のつながりを考えるプロジェクト（@岩手県盛岡市）」、「スーパーを通じて地域の商品の魅力を紹介するプロジェクト（@愛知県一宮市）」、「地域の魅力を紹介するプロジェクト（@三重県紀北町）」、「地域のハブ拠点構築をめざすプロジェクト（@山口県岩国市）」、「地域の集会所を立ち上げるプロジェクト（@長野県佐久市）」、「温泉旅館から始まる地域創生プロジェクト（@愛知県蒲郡市）」等においては、プロジェクトの実施過程で得られた知見を形式知化することを目的として、複数の学生の卒業研究テーマへと発展している。

【社会貢献】

いずれのプロジェクトも地域課題に根ざした内容であり、プロジェクトの実施にあたっては、地域住民をはじめとする多様なステークホルダーと協働しながら取り組んでおり、地域活性化に貢献している。例えば、「地域のハブ拠点構築をめざすプロジェクト（@山口県岩国市）」においては、11月に読書イベントを実施し、地域の保育士や学生等と連携して「絵本の読み聞かせイベント」や「ビブリオバトル」などの企画を行った。これらの取組を通じて、地域住民との継続的かつ良好な関係構築が進められている。



「地域の魅力を紹介するプロジェクト（@三重県紀北町）」にて実施された展示イベントの様子@市ヶ谷



「温泉旅館から始まる地域創生プロジェクト（@愛知県蒲郡市）」にて掲示物を製作している様子



「木工作品をとおした知的障がいのある作り手と地域のつながりを考えるプロジェクト（@岩手県盛岡市）」でヒアリングをしている様子

主なトピックス

■ 特設ウェブページを開設

本プロジェクトでは、デザイン工学部が多様な地域連携活動を実施していることを学内外に広く発信・訴求することにより、活動への理解促進および新たな参画者の拡大を図ることも目的としている。この目的のもと、プロジェクト全体の趣旨や構成、ならびに各地域で展開されている個別プロジェクトの取組概要を体系的に整理し、これらを説明するウェブページを新たに開設した。

今後は、各プロジェクトの進捗状況や成果について、適宜情報を更新・発信することで、継続的な情報共有および学内外への可視化を図っていく予定である。



デザイン工学部特設サイト内に開設されたページ
<https://renew-sit-eng-design.jp/other-activity/cocdesign>

■ DNPプラザにて展示イベントを開催

市ヶ谷に所在するDNPプラザにおいて、三重県紀北町の魅力を発信することを目的とした展示を開催した。本展示では、内装デザイン、ジオラマ、パネル、映像コンテンツ等を用いて地域の特性や魅力を多角的に紹介しており、その企画・制作・実施には修士課程および学部課程の複数の学生が参画した。

また、本取組の様子は本学のニュース記事としても取り上げられ、学内外への情報発信にも寄与した。特に、研究室配属前の学部3年生が自主的に本プロジェクトへ参画したことにより、地域連携活動が学年を越えて継続・接続される契機となり、教育的波及効果の観点からも意義のある取組となった。



展示会場の様子

■ 地域協働イベントを開催

11月1日から3日にかけて、山口県岩国市のイロハープにおいて、「いろはに本と。」と題した地域連携イベントを開催した。本イベントでは、マルシェの開催をはじめ、地元の保育士による絵本の読み聞かせ会、地元の中高生によるビブリオバトル、ならびにおすすめ選書コーナーの展示など、多様な企画が実施された。本イベントは、地域住民に加え、本学のほか山口大学も参画するなど、複数の主体による協働体制のもとで実施された。本学学生は主としてイベント現場のマネジメントを担う役割として参画するとともに、研究活動の一環として、地域連携イベントにおける運営上の課題を抽出するための観察・記録を行った。



絵本の読み聞かせ会の様子

■ 旅館内展示がスタート

10月に、学生が主体となって制作した「平野屋の沁み方マップ」および「平野屋いきもの図鑑」を平野屋館内に設置した。本取組は、平野屋を地域連携拠点として位置づけていくにあたり、館内における総合的なサイン計画および展示計画の構築に向けた第一段階の試行として実施したものである。

本試行の結果、来館者からの反応も良好であったことから、現在は館内全体のサイン計画をはじめ、メデイテーションルームの空間デザインや動線・誘導計画へと展開しつつ、地域との関係性を可視化することを目的としたサイン計画および展示企画が本格的に始動している。



平野屋内に設置された「平野屋の沁み方マップ」